

息子に遺す父の愛

松本 侑壬子・ジャーナリスト

自閉症の子へ捧げる親の無償の愛、と言えは凡庸な表現であろうか。末期がんの父親が、この子を残しては死ねないと、あらん限りの知恵と愛の力をふり絞って息子に伝えたものは一。

ジャッキー・チェンと並ぶ中国のスーパー・アクションスター、ジェット・リーが全く新しい役柄に挑戦、苦悩の中に息子への最高の愛を貫く一人の父親像を演じて胸を打つ。

山東省チンタオ（青島）の海。小舟の舳先に並んで座った父と息子。よく見ると二人の片足首にはそれぞれロープが結びつけてある。心中まで思い詰めた父の心も知らず、一緒に飛び込んだ息子は軽々とロープを外して水面に浮き上がり…。え？と冒頭から引き込まれる巧みな話の展開。

帰宅した二人を向かいの家のチャイさんが、何も知らずにいつものように優しく迎える。無邪気な顔の息子、ターフー（大福、ウェン・ジャン）に父シンチョン（心誠、リー）はこっそり語りかけずにはいられない。「お前、一人生き残って、生きていけるのか？ 誰が世話をする？」

父は、チンタオの水族館で長年水槽と電気管理の仕事をして、妻の死後、男手一つで自閉症の息子を育ててきた。水泳の好きなターフーのために館長に閉演後の水槽をプールの代わりに使わせてもらっている。普段は歩き方もぎこちないターフーだが、水の中ではしなやかに魚の群

れと戯れ、海亀と仲よく泳ぐ。父は勤務の間を縫って、方々に電話を掛け、何とか息子を預かってくれるところを必死に探している。実は自らは末期がんで、医者から余命3ヵ月の宣告を受けているのだ。死ぬまでに息子に生きる道を確保しておかなければならない。

二人の家は簡素な男所帯だが部屋はきちんと整い、回り灯籠風な魚の絵の電気スタンドがかわいい雰囲気。シャツを着替えるとき、お腹を搔いて、とキャッキョと甘える無邪気な21歳。この子をこの世に一人残せるのか。悩むシンチョンにチャイさんは何とか力になりたいと思う。骨壺に貼る写真を預かり、「(ターフーのことは) 私が引き受ける」と言ってくれた。それでも、父はゆで卵の作り方、バスの乗り降りのときの合図の仕方、家の鍵の開け方など、一つひとつ懇切丁寧に息子に教えずにはいられない。必ず「いいぞ、いいぞ」と励ましながら。

水族館にサーカスが巡業に来て、ターフーは女の子ピエロのリンリンと仲よくなる。リンリンは水族館の公衆電話が鳴るときは、私からの電話だからね、と教える。父以外の人に初めて心を開くターフー。だがサーカスは突然去っていく。初々しい花のつぼみのようなターフーの思いは、もう、だれも受け止めてくれないのか。心の抛り所はないのか。父は自分の死後の息子の心を思いやる。そして…。惜別の慟哭を超えて、祈りに満ちた海亀の泳ぐ海の天国へと想いは続く。

シュエ・シャオルー監督は、学生時代から自閉症患者のためのボランティア活動を続けてきた。その実体験に基づく本作の脚本に感動したリーは、ノーギャラ、ノー・アクションで出演を申し出たという。ハンサムで若々しい肉体は、この役柄にはもったいなさすぎる！とも言えるが、それだけにラストは泣けます。

『海洋天堂』

中国映画（98分）／シュエ・シャオルー監督

夏、シネスイッチ銀座ほか全国順次ロードショー

©2010, Nice Select Limited. All Rights Reserved.

